

文化財 NEWS

こちらの QR コードから、閲覧・ダウンロードができます→



学校での文化財活用 ~ 田島の三匹獅子 ~

南会津町田島地域で行われている「田島の三匹獅子」は、県指定文化財に指定されています。「田島の三匹獅子」は、「栗生沢三ツ獅子（くりゅうざわみみつじし）」と「高野三匹獅子（こうやさんびきしし）」の総称です。

田島中学校では、栗生沢三ツ獅子若者団（以下、若者団）の方をお招きして道徳の授業が行われました。子供たちは、獅子舞の歴史や演目の内容を教えてもらったり、舞の様子を映像で見せてもらったりすることで、郷土の伝統と文化を尊重する気持ちを高めました。特に、迫力ある獅子頭（獅子のかぶり物）の実物を間近で見た子供たちは興味津々の様子で見つめていました。



栗生沢三ツ獅子

一人立ちの三人一組（一人が一つの獅子頭をかぶり、三人一組で舞う）の獅子舞で、若者団の方々が伝承されています。日光東照宮が建立された際、地固めの舞を演じたというエピソードがあり、歴史は江戸時代までさかのぼります。大山祇神社の祭礼や二百十日（立春から210日目の日。9月1日頃）の前祭り、お盆などに舞われています。

若者団の方によると、「雌獅子と相愛となり、雄獅子から奪って深山幽谷を逃げ歩く太夫獅子。それを雄獅子が追い、雌獅子を取り戻し仲直りする。」という内容の演目もあるとのことでした。昔から伝わる文化財にも、ドラマティックな内容のものがあるのですね。



高野三匹獅子



一人立ちの三人一組の獅子舞で、高野三匹獅子保存会の方々が伝承されています。8月の子安観音講や二百十日の「風祭り」、9月の稻荷神社の祭礼にて奉納されます。

特に、長さ1.7mの弓をくぐる「弓くぐりの舞」は、全国でも珍しい演目で最大の見せ場です。暗い夜の境内で、かがり火の中行われる舞はきっと幻想的でしょうね。

獅子舞自体が関東から伝承されてきたのですが、古い木彫りの獅子頭は、下野国（現在の栃木県日光市）の方が作ったとのことでした。関東とのつながりが伺えます。

※ 参考文献および使用写真：『南会津の文化財』令和4年 南会津町教育委員会 発行より

祭りや年中行事、生活技術など、その地域において世代を超えて伝承されてきた無形民俗文化財は、それを伝承する人の存在が重要ですが、域内のどの無形民俗文化財も、伝承が課題となっているようです。

若者団の方は、「学校に来ての授業は初めてでした。地元だけではやっていけません。子供たちに伝える機会があって本当にありがとうございます。」とおっしゃっていました。学校と連携し、子供の頃から無形民俗文化財の貴重さや趣深さを感じる機会を設けることが課題解決の方策の一つとなりそうです。

